

一泉

発行所
〒921 金沢市泉野出町
3丁目10-10
金沢泉丘高等学校内
一泉同窓会
電話(0762)42-0211
定価 1部 150円
橋本清文堂

新会長に

渋谷亮治氏を迎え 宮会長退任される

一泉同窓会は、このたび新年度をむかえて、役員の変更が行われた。

このため、去る十月十五日に開催された一泉同窓会総会の席上にて、次期会長として渋谷亮治氏が選出され、一泉同窓会は、あらたな第一歩をふみ出すこととなった。

退任された宮前会長は初代会長、英安吉氏のおとを受け継ぎ、十数年の長きに亘って会長職をつとめられ、今日の一泉同窓会発展に寄与された。

今後、渋谷新会長のもと、次の方々が副会長となり、会長を補佐し、同窓会の運営にあたることとなった。

新副会長

- 藤田 誠一(一中33回卒) 山長 与作(一中44回卒)
- 山本 道生(一中54回卒) 三野 裕(泉4回卒)
- 西尾 稔(泉5回卒) 柴野常太郎(泉6回卒)
- 中谷 道子(泉6回卒) 浅香以都子(泉10回卒)

—以上の八氏—

同窓会長を交替するにさいし これ迄のご協力を感謝します

宮 太郎

この度、一泉同窓会会長の交替に際し英前会長のおとを受け継いで十六年、その間、役員、各期委員の方々は勿論、会員皆様のご支援をいただき、八十周年、九十周年の各創立記念行事を盛大に挙行させていただき感謝に堪えません。

また、昭和五十六年度から始まった新校舎の全面改築につづき、その落成式等幾多の想い出が残ります。

今後、同窓会の中心も愈々泉丘出身の会員が中心となり新しい息吹きの導入と共に新会長のもと益々親睦を深め、活動されんことを祈念し今後の発展を期待いたします。



ごあいさつ

一泉同窓会会長 渋谷 亮治

会員の皆様には、益々ご健勝ご隆昌の事とお慶び申し上げます。

はからずも本年度総会におきまして、会長職をお預りする次第に相なり、若輩非才の身で恐縮致しております。

永く深い伝統と広がりを持つ一泉同窓会のこれからも、たゆむことなく前進発展を続ける歴史の一コマを、身を引きしめて担って参りたいと肝に銘じております。

何と云いましても同窓会は、同窓生一人一人の、そして全員の結集体であります。今はやりの経営論というホロンの組織であろうかと思えます。個と全体の生き生きとした調和の中で、活力ある、また楽しい活動が出来れば幸いと念じております。

諸先輩方、諸役員の方々のご指導ご支援を賜りまして、何とか任を全うさせて頂きたく、ご挨拶を申し上げる次第であります。

「一泉」第十一号によせて

泉丘校蔵書解題目録の

編集を終えて (8)

大野弁吉の稿本

「応象寛曆書」

山 森 青 硯

(一中三十三回卒)

筆者が泉丘校に通い、最も驚いたのは、昭和五十四年五月十六日同校図書館階下室に於て、大野弁吉の稿本「應象寛曆書」を発見したときであつた。

然も雑書と一緒に在つた。特に和漢書の整理済は二階書架、階下は項目不明、として未整理の書冊であつた。(桑山周一氏聞書)

先ず筆者の目をひいたのは、三ヶ所にある「鶴寿軒一東」の墨書捺印であつた。

緋けば緋く程、弁吉独特の墨書写本であつた。

上編四冊、大野弁吉著 著者自筆本 一八・八×一四・五

蔵書印「石川県尋常中学校蔵書之章」 難読印一

昭和五十三年六月一日、於石川県立郷土資料館「銭屋五兵衛展」があつた。その時、泉丘本と同名同題の



以月東西定度之餘弦除之即月天実之半径

の如くである。弁吉確信ある論説場所には必ず「鶴寿軒一東推之圃」の署名捺印がある。例えば前記「上編之二」巻末に、

視寛政曆 鶴寿軒一東推之 圃

天保十三年壬寅年六月十五日壬辰

日夜月帯食云々

とある。按うに、同じ本多利明の流れをくむ遠藤數馬が、文政十年(一八二七)能登の宝達山の高さを測り、はては地球の半径を測定したのと其の軌を一にしている様に思えてならぬ。

筆者大野弁吉を語るに、どうしても銭屋五兵衛を語らねばならぬ。弁吉、銭五車の両輪の如く、表裏一体と云えよう。

我が郷土碩学国府種徳氏が省内省に入つたとき、未だ幕臣勝海舟が居た。曰く、加藩は早まったことをした。幕府は銭屋五兵衛の海外貿易の件を既に知り、見て見ぬふりをしていたに、シーボルトの異法海外持出しも既に知であつたと云う。我邦前途に深い理想を画しておられたに違いない。弁吉の博学もとより幕府の知る処、海舟つぶさに述べたと云う。

抑々天保十年(一八三九)フランス政府が、公式に写真発明ダゲールを発表した。それから約一年にして



